

皮膚科

○皮膚科の概要

1. 皮膚科の特色

皮膚科では、アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などの湿疹・皮膚炎をはじめ、蕁麻疹やアナフィラキシー、薬疹などのアレルギー疾患、乾癬、帯状疱疹や蜂窩織炎など一般的な皮膚感染症、壊死性筋膜炎などの重症細菌感染症、悪性黒色腫や有棘細胞癌などの皮膚腫瘍、熱傷や各種皮膚潰瘍、皮膚筋炎や強皮症、全身性エリテマトーデスなどの膠原病、天疱瘡や類天疱瘡などの水疱症、母斑症などの先天性皮膚疾患などを扱っており、皮膚科臨床研修ではこれら皮膚疾患全般について病態を理解し、診断と治療について学ぶことができる。当科の専門外来として、アレルギー外来、乾癬外来、膠原病外来、皮膚外科外来、レーザー外来があり、陪席し、学習できる。さらに外来や手術室での手術、パッチテストやプリックテストなどのアレルギー検査、Q-スイッチルビーレーザーやダイレーザーなどによる色素異常症や血管腫のレーザー治療、ナローバンドUVB療法などの紫外線療法、生物学的製剤を用いた乾癬治療など広く研修することが可能である。皮膚病理組織勉強会では炎症性疾患や腫瘍など各種皮膚疾患の皮膚病理組織について学習する。また症例検討会を通じて、担当した疾患に対する診断、鑑別、治療などを総合的に議論し、実際の皮膚科診療を身につけることができる。

2. 診療実績

主要疾患別の入院患者数(/年)

【皮膚悪性腫瘍】		SLE	1	動脈閉塞・静脈血栓症	4
悪性黒色腫	9	皮膚筋炎	7	熱傷	4
有棘細胞癌		【血管炎】		【動物咬傷】	
(Bowen病、日光角化症含む)	31	IgA血管炎	6	マムシ咬傷	7
基底細胞癌	18	皮膚動脈炎	2	【湿疹】	
血管肉腫	2	【感染症】		アトピー性皮膚炎	6
悪性リンパ腫	2	蜂窩織炎(丹毒含む)	23	紅皮症	3
【皮膚良性腫瘍】		壊死性筋膜炎・ガス壊疽	12	【乾癬】	
粉瘤	3	帯状疱疹	9	尋常性乾癬・膿疱性乾癬	3
脂肪腫	14	カポジ水痘様発疹症	1	【薬疹・中毒疹】	
神経線維腫	13	【膿皮症】		ステイブンスジョンソン症候群	2
その他良性腫瘍	25	化膿性汗腺炎	2	中毒性表皮壊死融解症	2
【水疱症】		【皮膚潰瘍・血行障害】		薬剤性過敏症症候群	2
天疱瘡群	6	糖尿病性壊疽	10	その他の薬疹(紅斑丘疹型など)	9
類天疱瘡群	18	鬱滞性脂肪織炎等	9	【蕁麻疹】	
【膠原病】		強皮症による皮膚潰瘍等	3	蕁麻疹・アナフィラキシー	1

3. 診療スタッフ

中村 晃一郎(教 授) : アトピー性皮膚炎、皮膚アレルギー
土田 哲也(教 授) : 膠原病、皮膚腫瘍、皮膚アレルギー
常深 祐一郎(教 授) : 皮膚真菌症、アトピー性皮膚炎、乾癬
宮野 恭平(講 師) : 乾癬、皮膚アレルギー
柳澤 宏人(助 教) : 皮膚外科、皮膚腫瘍
ほか助教

4. 臨床研修プログラムの特色

臨床研修の到達目標にあげられた項目の中で皮膚科において経験できる手技を経験するためのプログラムである。将来、皮膚科医として専門医を目指す者にとっては、その基礎となる研修プログラムである。また、科を問わず臨床医を目指すすべての者にとって習得しておくことが望ましい内容が含まれている。

5. 指導責任者

中村 晃一郎(教 授)
土田 哲也(教 授)
常深 祐一郎(教 授)
宮野 恭平(講 師)

6. 週間予定

	月	火	水	木	金	土
8:00					朝カンファ	
9:00	教授回診	手術	外来	病棟	外来	病棟
10:00						
11:00						
12:00	教授回診	手術	外来	病棟	外来	病棟
13:00	特別診察*	特別診察*	特別診察*	特別診察*	特別診察*	
14:00	専門外来	手術・病棟	専門外来	専門外来		
15:00					教授回診	
16:00	専門外来	手術・病棟	専門外来	専門外来		
17:00	勉強会	組織勉強会				

カンファ

(臨床写真、組織、手術、化学療法)

*特別診察は、必要時に実施される

○皮膚科の学習目標

一般目標(GIO)

臨床医に必要な皮膚疾患診療の基礎的能力を身につけるために重要な疾患の診断と治療の実際を学ぶ。

行動目標(SBOs)

1. 皮膚病変の発疹を記載できる。
2. 局所麻酔、簡単な切開排膿を実施できる。
3. 簡単な皮膚縫合ができる。
4. 創部の消毒ができる。
5. 熱傷、化学熱傷、凍傷の治療計画が立てられる。
6. 湿疹・皮膚炎患者、蕁麻疹患者を経験し治療を行う。
7. 膠原病患者、水疱症患者を経験し治療を行う。
8. 薬疹患者を経験し、原因を検索するためのアレルギー検査を行う。
9. 多種の皮膚感染症を経験し、検査、治療計画が立てられる。

研修方略(LS)

病棟診療においてチームラウンド、ベッドサイド回診を通して受持患者の診療に関して指導医より指導を受ける。

毎週水曜日・金曜日の症例カンファレンスを通して研修医が経験した症例をプレゼンテーションし、スタッフよりフィードバックを受ける。紹介患者の症例検討会(大学主催)や皮膚科学会地方会において受持患者の症例を発表し、質疑応答を行いフィードバックを受け、理解を深める。

評価方法(EV)

チームラウンド、ベッドサイド回診、病理カンファレンス、症例カンファレンス(週2回)、症例検討会を介してスタッフ、指導医が評価を行う。

研修問い合わせ先

村上拓生

埼玉医科大学皮膚科 049-276-1247